

津田沼公園のピオトープ設計

千葉工業大学 ○学生員 青柳 直樹
 千葉工業大学 正会員 篠田 裕

1. はじめに

JR津田沼駅南口から習志野文化ホール・大型スーパーへ伸びる立体歩道橋は、緑の中にある階段などをぬけてこれらの施設にアプローチできるようになっている。さらに、歩道の盛土勾配を生かして小さな滝をつくった水景施設があり、津田沼公園と呼ばれている。しかし、大型スーパーが撤退した今、日頃見かけるのは、雑然と停められた自転車やバイク、夜中にたむろする高校生たちだ。このままでは、JR津田沼駅前の風紀がさらに乱れ、水景施設を有する公園としても有効な活用がなされない。

そこで、津田沼公園を新たな発想から設計し、魅力ある水景施設・緑地をつくることで、電車から降りてきた人たちや、近隣の子供たちが集まる「本当の意味での公園」を作りたいと考えた。

2. 計画地

所在地：千葉県習志野市谷津1丁目16

面積：5,000 m²

計画地の概要を、図1に示す。



図1 計画地概要図

3. 問題点

計画地の現状には、以下の問題点がある。

- ・ ほぼすべての出入り口に無骨な車両止めが設置され、閉鎖的な印象を強く受ける。また、無断駐輪の自転車が散乱しているため、車椅子や白杖を利用する人の大きな障害となっている(図2)。
- ・ 公園内には大きな樹木が植栽されているが、ムクドリが集まるのを阻止するために、枝が落とされ、ネットが張られているために、景観が損なわれている。鳥の糞で地面は汚れ、夜にはおびただしい数の鳥の鳴き声が園内に響き渡っている(図3)。
- ・ 園内の動線と水景施設との関係性が明確でないために、滝や流水に目を留める人が少ない。また、子供たちが水遊び出来るような、安全を考慮した計画がなされていない。



図2 閉鎖的な車両止め



図3 ネットを張られた樹木

キーワード：ピオトープ 親水性 景観 ユニバーサルデザイン

連絡先 〒275-8588 千葉県習志野市津田沼2-17-1 千葉工業大学建築都市環境学科 TEL：047-478-0446

4. 計画の流れ

4.1 周辺環境の把握

周辺の状況はどうなっているのか、どんな上位計画があるか等のデータを確認する。

→周辺に集合住宅・大学や予備校が存在することから、主な利用者を小学生，大学生に設定。

4.2 ニーズの把握

どのような利用者が、どのようなことを望んでいるのかを把握する。

→「習志野市環境基本計画対策調査報告書」中で世代別に行なわれた環境に対するアンケート結果から、本計画と関係のある質問項目に着目した。

アンケート結果から見る小学生の望む公園の姿

- ・生き物を観察できる
- ・きれいな緑がある
- ・楽しい遊び場がある
- ・芝生のある公園
- ・安全に遊べる etc.

結果から、自然と触れ合うということに関心が高いことがわかる。

大学生のアンケート結果からの考察

習志野市の緑に満足しているか、水辺に親しめる環境があるかという項目に、ほぼ半数が「少し不満」、または「不満」と答えた。

4.3 ユニバーサルデザイン

問題点の項で指摘した、公園出入り口の車両止めの改善。既存の無骨なものから、公園に溶け込むデザインに変更し、かつ車椅子でも利用できるようにする。

園路も様々な利用者の条件に合う、歩きやすい素材を利用し、素材の変化によって足の裏を通した触感が園内を回遊するサインとなるようにデザインする。

舗装材の比較検討した結果を、表1に示す。

表1 舗装材の比較

舗装材の種類				
土			×	○
木デッキ	○	○		×
石舗装		○		×
木チップ舗装		○		
廃ガラス混入タイル舗装	○	○		
古タイヤ再利用チップ舗装	○	○		

歩き易さ 環境負荷 メンテナンス コスト

5. 公園のコンセプト

・多面性

津田沼公園は、東西南北の見る方向によって様々な面を持たせることの出来る可能性があった。そこで、傾斜を利用し、利用者が見る角度によって、公園が多様な表情を見せるようにデザインする。

・自然とデザインの融合

津田沼公園の周辺は、駅や学校、大型店舗が密集しているため、単に緑地を設けても、周辺の環境と馴染まない。そのために、市街地もうまく溶け込むように、自然とデザインが融合し、利用者に、より公園に愛着をもってもらわなければならない。

6. 計画内容

公園内を3種類のテーマに分ける。

ビオトープ

四季を感じることが出来るような植物を植え、小動物達の棲家、あるいは移動の中継地点となり得る池を設置する。また、その動植物たちを、利用者が観察できるように遊歩道をつくり、子供たちが「課外授業」などに利用できるような自然を提供する。

噴水・モニュメント

傾斜地の上方に噴水を設置し、斜面を利用した滝を作る。また、バス停側から公園を見た際に、水の流れを視覚と聴覚で楽しむ空間をつくる。さらに、流水の音・反射光を利用して害鳥を減らすことのできるモニュメントを設置する。

親水施設

暑い季節などに、子供たちが集まる親水施設を計画する。安全面を考慮し、水深は5～10cm程度とする。また、水遊びをする子供たちの状況を、保護者たちがつねに見守ることの出来る休憩スペースを設置する。

クライミングエリア

千葉県は、フリークライミングがとても盛んな地域であり、人気がある。そこで、津田沼公園にクライミングエリアを設置し、屋外で楽しむ空間を、親水施設と共に提供する。

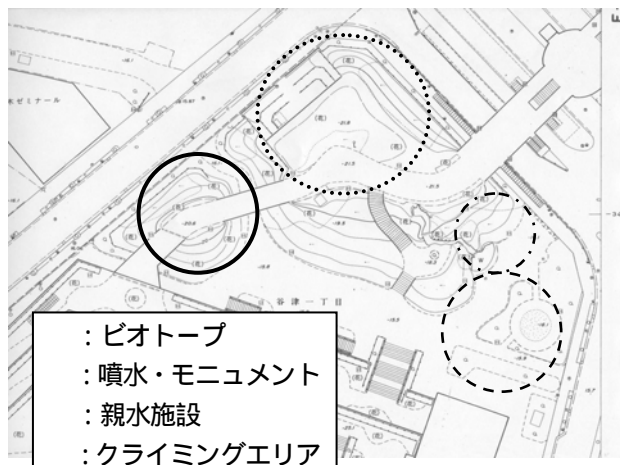


図4 計画概要図

7. 参考文献

- ・習志野市環境基本計画対策調査報告書，2006年
- ・（財）都市緑化技術開発機構：公園のユニバーサルデザインマニュアル，鹿島出版社